

263 - 1494
平成24年8月28日

各関係機関の長
各病虫害防除員 殿

宮崎県農政水産部長

平成24年度病虫害発生予察警報第1号について

平成24年度病虫害発生予察警報第1号を発表したので送付します。

平成24年度病虫害発生予察警報第1号

平成24年8月28日
宮崎県

病虫害名 トビイロウンカ
作物名 普通期水稻

- 1. 発生地域 県内全域
- 2. 発生時期 -
- 3. 発生程度 多

4. 警報発令の根拠

- (1) 県では注意報第3号(平成24年8月16日付け)を発表し、トビイロウンカに対する防除徹底を啓発したところである。しかし、8月下旬に実施した巡回調査の結果、依然として発生地域は拡大し、生息密度も高まっている。
- (2) 8月下旬の巡回調査における発生面積率75.0%は、坪枯れ等の被害が発生した平成21年度や平成22年度(両年ともトビイロウンカに対する警報を発表)よりも高く、株当たり虫数0.93頭は平成22年度よりも多い(表1、図1、2)。特に北諸県と西諸県における生息密度は急激に高まっており、北諸県は発生面積率100%、株当たり虫数2.21頭、西諸県は発生面積率87.5%、株当たり虫数1.56頭となっている。

表1. 巡回調査における発生状況(8月下旬)

年度	発生面積率 (%)	株当たり虫数 (頭)
平成24年度	75.0	0.93
平成23年度	40.6	0.04
平成22年度	64.3	0.13
平成21年度	62.3	2.40

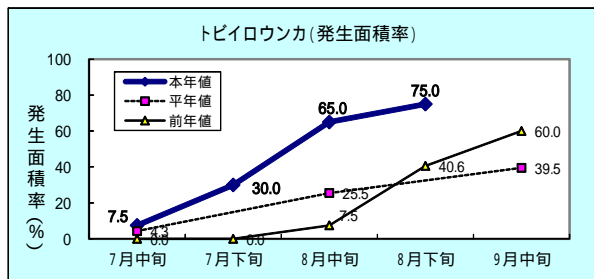


図1. 発生面積率の推移

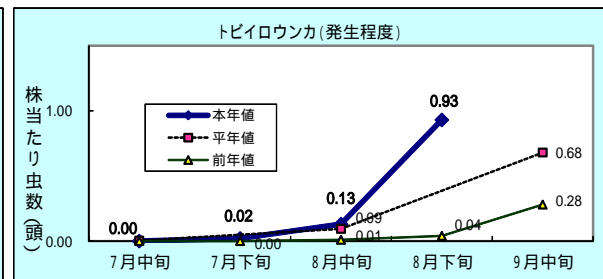


図2. 株当たり虫数の推移

- (3) 鹿児島地方気象台が8月24日に発表した向こう1ヶ月の気温(8月25日～9月24日)は、高い確率が50%と予想されていることから、本種の増殖に好適な状況がしばらく続くと考えられる。

5. 防除上の注意

- (1) トビイロウンカは水田に侵入後2～3世代増殖を繰り返し、急激な密度上昇により収穫期頃に大きな被害を及ぼす。防除適期は、幼虫期前半であるが、地域やほ場によって発生状況にばらつきがあるので、ほ場をよく観察し、水稻の株元に成虫及び幼虫を確認した場合は速やかに防除を行う。ただし、注意報第3号の発表以降に本田防除を行っていないほ場については、直ちに防除を行う(別紙:県内トビイロウンカの発生世代予測を参照)。
- (2) 既に本田防除を行ったほ場においても、その後の発生状況を確認し、密度が高ければ直ちに追加防除を行うなど、防除の徹底を図る。
- (3) 薬剤が本種の生息する株元まで十分到達しない場合には、十分な防除効果が得られない恐れがあるので丁寧な散布を行う。
- (4) 飼料用稲においては、「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」(平成23年1月)及び「飼料として使用する粳米への農薬の使用について」(平成21年4月20日付け21消安第658号、21生畜第223号関係課長通知、平成23年11月17日一部改正)、「飼料の有害物質の指導基準」(昭和63年10月14日付け63畜B第2050号畜産局長通達、平成24年4月9日一部改正)に沿って、適期防除に努める。

6. その他

- (1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局(農業改良普及センター)、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- (2) 6月1日から8月31日は、農薬危害防止運動月間です。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

連絡先 宮崎県農政水産部営農支援課 古川智久、蒲原裕文 : 0985 - 26 - 7132 Fax : 0985 - 26 - 7325 E-mail : einoshien@pref.miyazaki.lg.jp

過去のトビイロウンカによる被害状況



写真1．トビイロウンカによる坪枯れ（H17）



写真2．トビイロウンカによる坪枯れ（H17）



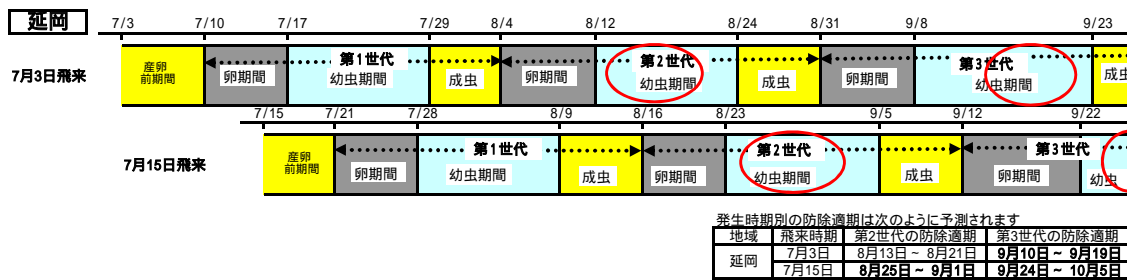
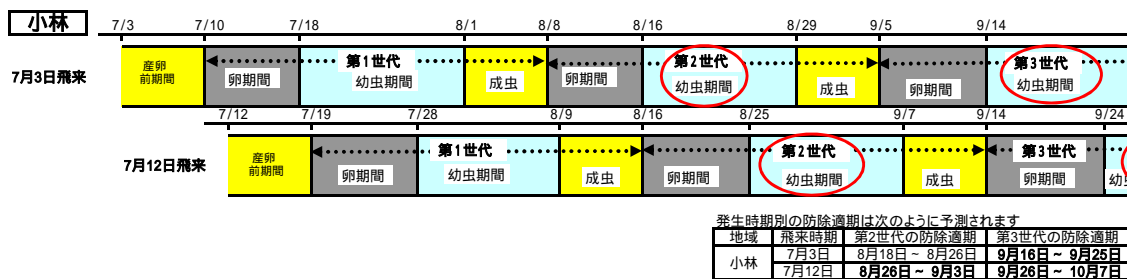
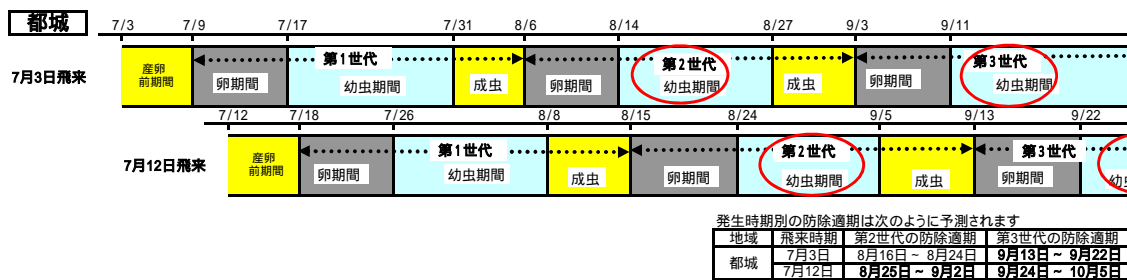
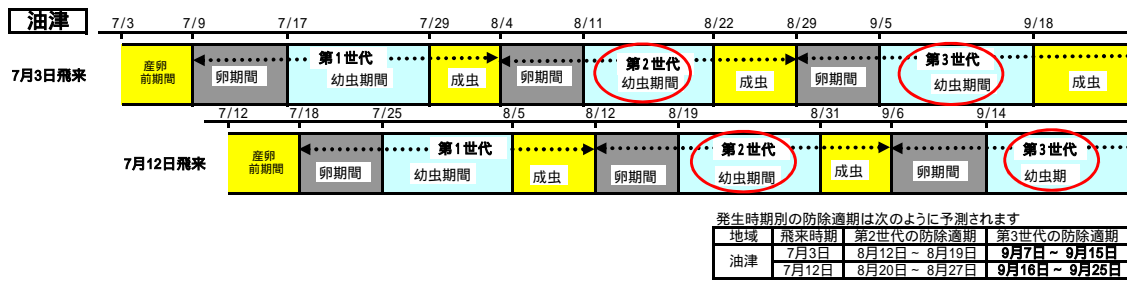
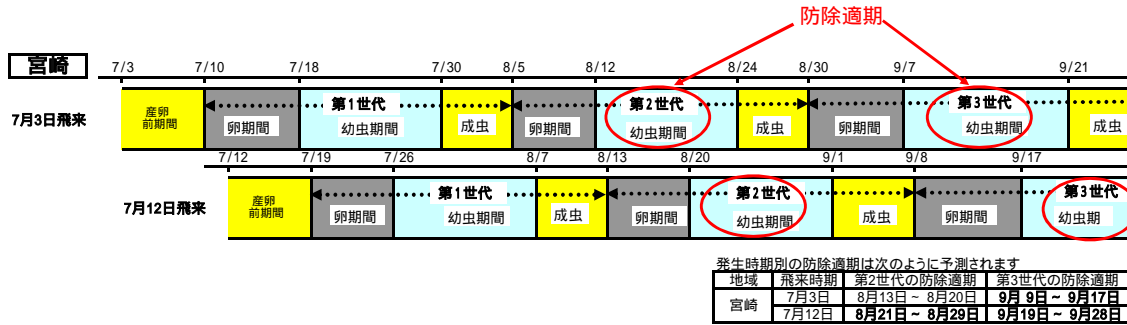
写真3．株元に集中加害するトビイロウンカ（H22）



写真4．トビイロウンカによる坪枯れ（H22）

H24 県内トビロウカの発生世代予測 (H24.8.25時点)

発生世代予測の飛来日は県内におけるトビロウカの主要飛来日。気温は8月25日までは本年値、8月26日以降は各地域の平年値を参考にした。なお、実際の世代交代は今後の気温の推移により異なる。



発生世代予測は「有効積算温度による海外飛来性害虫の発生予測支援システムVer. 2.12(Copyright 2009 S.TERAMOTO)」より算出。